

水木しげる氏

表紙絵

＝みんなで行くぞ！＝

表紙絵：水木しげる

- | | |
|----------------------------------|-----|
| ・ 特集：図書館が便利になる！～ICタグシステム導入～…………… | 2～5 |
| ・ 令和6年度 子どもの本に親しむ会 …………… | 6 |
| ・ 利用者懇談会 …………… | 7 |
| ・ 郷土の歴史と伝承 …………… | 8 |

※音声版、マルチメディアDAISY版もあります。ご希望の方は図書館へお問合せください。



図書館が便利になる！

2025年2月19日から調布市立図書館は移転建て替え予定の分館※を除いて、ICタグシステムの導入・運用を開始しました。

※宮の下分館・緑ヶ丘分館・若葉分館は移転後に導入を検討しています。

1. ICタグってなに？

ICタグとは情報を記録できるICチップを埋め込んだタグです。ICタグに電波を当てることによって、ICタグ内のチップにデータを書き込んだり、読み込んだりすることができます。

導入のメリット

① セルフサービス

利用者自身が簡単に、他の人に資料のタイトルを知られずに貸出・返却ができます。

② スピードアップ

複数冊を同時に即時処理できます。

2. ICタグを貼り付ける

令和6年6月から図書館の蔵書にICタグを貼り付け、資料を識別する情報を書き込む作業をしてきました。この作業を行うことで、図書館内設置のセルフ貸出機や自動返却機、予約本受取コーナーでの即時処理が可能となります。



3. 調布市立図書館で導入した機器

(1) セルフ貸出機

ご自身で簡単に貸出処理ができます。

中央図書館

4階に3台、5階に2台、予約本受取コーナーに1台設置

IC機器を導入する各分館

各館1台ずつ設置



中央図書館 4階



富士見分館

(2) 自動返却機

投入後即時返却が可能となります。

※他自治体からの借用本，視聴覚資料，マンガセット，CD・DVD付資料等はブックポストに返却できません。カウンターでお返してください。

中央図書館

4階・5階に設置，ブックポストに内蔵

IC機器を導入する各分館

各館1台ずつ設置，富士見・染地分館はブックポストに内蔵



中央図書館4階



佐須分館

(3) 予約本受取コーナー

ブックポストで返却したらすぐに1階予約本受取コーナーで予約した資料を借りることができます。

中央図書館

調布市文化会館たづくりの1階エントランスホールに設置

※他自治体からの借用本や視聴覚資料，マンガセット，CD・DVD付資料等については，4階カウンターでの受渡しとなります。



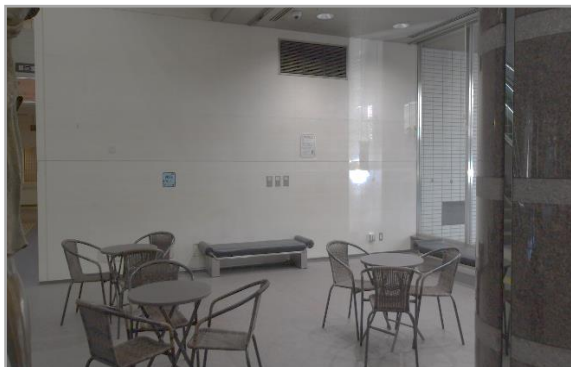
中央図書館受取で予約したら，まず1階の予約照会機へ



4. 予約本受取コーナーができるまで

予約本受取コーナーの工事は令和7年1月から始まりました。実際にコーナーができるまでを写真で振り返ります。

1月26日(日)



工事の前日

1月28日(火)



パーティション工事をしました

2月3日(月)



書架が入りました

2月4日(火)



サインがつけました

2月5日(水)

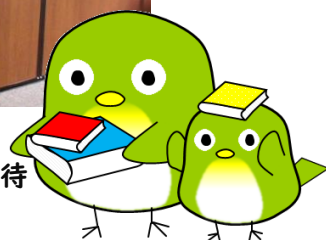


機器を設置する家具が搬入されました

2月19日(水)



たくさんの予約本が皆様をお待ちしています



5. もっと図書館を便利につかうコツ

ア パスワード登録



図書館ホームページ
を活用しよう!

パスワードを登録すれば、メールアドレス登録、インターネットからの予約、期限延長、返却期限お知らせや新着図書資料お知らせサービス等の各種メールサービスが利用できます。



①調布市立図書館HPの
利用者メニューをえらびます。

②ページの一歩下までスクロ
ールしてパスワード登録のリン
クを押します。

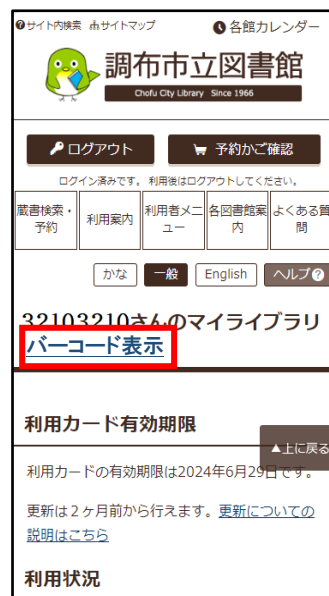
③利用カードの番号、利用登録
されている電話番号、生年月日、
設定したいパスワードを入力した
ら、登録するボタンを選びます。

イ スマホでバーコード表示

利用カードを忘れてもスマホでパパッと利用カードのバーコードを
表示できます。



②利用カードの番号
とパスワードを入
力してログインし
ます。



③カードの番号の
下の
バーコード表示の
リンクを押すとバー
コードが表示され
ます。

令和6年度 子どもの本に親しむ会

YAって？

『キャッチャー・イン・ザ・ライ』から70年

講師：金原瑞人氏



令和6年11月21日（木）に、法政大学教授で翻訳家の金原瑞人さんをお招きし、YA（ヤングアダルト）とは何かについてお話いただきました。講演の一部をご紹介します。

● 紙の歴史・書物の歴史

まず、パピルスや羊皮紙、メソポタミアの印章を会場に回して見せてくださいました。

メソポタミアの粘土板、エジプトのパピルス、羊皮紙には、法律や税金に関すること以外に、神話や聖書などが書かれました。羊皮紙で聖書を1冊作るのには羊が250～300頭必要だったと言われています。そのため、聖書は非常に高価で貴重な物。買って読めるのは神父やお金持ちなどごく一部の upper class の人だけでした。

紙が生まれ、安価に作られ、印刷技術も発達してくると、神話や聖書、王様や騎士などが中心だった時代からルネサンスの時代へ。18世紀になると小説が書かれるようになります。それに伴い、書物を読む人も、物語の主人公も、庶民や中産階級といった普通の人たちになっていきました。けれども、書物はまだ“大人”のものでした。

● YAとは？

19世紀に入ると経済的余裕から子どもの教育へ目が行くようになります。社会的に“子ども”という存在が認識されるようになり、子どもが読んで楽しい子ども向けの本が書かれ始めました。

YA世代つまり“若者”が認識されるようになったのは、その後のことです。“子ども”と“大人”の二層構造だったのが、戦後、経済成長が進むにつれ、高校・大学等へ進学する人が増えて、“子ども”と“大人”の間に“若者”が誕生し、三層構造になったのです。YAもそれまでの書物の歴史と同じように、“若者”が認識されたことによってその物語が生まれたのです。

書物の歴史を紐解きながら、社会の中で新たに存在を認識された人たちが書物の読み手となり、そこに描かれる対象になっていったということをわかりやすく話してくださいました。最後に、「現在は子ども・若者・大人・老齢の四層構造。これから老齢の文学が生まれるのではないかと思います」とおっしゃっていたのも印象的でした。

金原 瑞人（かねはら みずひと）氏

1954年岡山県生まれ。法政大学教授。翻訳家。

80年代より新聞、書籍、雑誌などで精力的にヤングアダルト（YA）向けの書評を執筆。

利用者懇談会報告

図書館では全3回利用者懇談会を行いました。各回とも活発に意見を出していただき、皆様の声を直接伺うことができた貴重な会になりました。詳しい内容は、図書館のホームページで公開しています。利用者懇談会でいただきました様々な御意見などを活かし、より良い図書館になるよう目指してまいります。

1. 図書館利用者懇談会

テーマ：資料検索のコツ、教えます

内容：第一部 ホームページからの蔵書検索の方法や、書架から資料を探す方法、調布市で所蔵していない資料のリクエスト方法についての説明

第二部 参加者の図書館活用方法や図書館への要望・質問などを含めた意見交換

	実施日	会場	参加者数
第一回	令和6年11月21日（木）	文化会館たづくり	14人
第二回	令和6年11月28日（木）	神代分館集会室	3人

参加者からの主な意見：

- ・手話でのおはなし会や、読み聞かせをする人の育成講座の希望について
- ・資料の選定基準、読書会や公開講座のテーマの選択基準について
- ・電子図書館の導入について
- ・図書館でのイベントや、子どもと高齢者をつなぐ事業の希望について

2. 利用支援サービス利用者懇談会

内容：令和5年度の利用状況報告、利用者からの日頃の感想や要望

実施日	会場	参加者数
令和6年10月31日（木）	文化会館たづくり	利用者12人、協力者17人

参加者からの主な意見：

- ・DAISY図書での読書を楽しんでいる ・英語の歌詞など幅広い点訳に感謝している
- ・図書館は年齢で空間が分けられているので、幼児向けスペースに年齢が少し上の子どもを入れるようなスペースがあると、読みの困難な子どもにとって助かる
- ・利用者懇談会に視覚障害者以外の方が多く参加すると良い
- ・夏の暑い中、宅配してくださる協力員の方に感謝している
- ・学習障害のある子どもや保護者へのマルチメディア DAISY のアプローチが必要である

▼第1回目 中央図書館

▼第2回目 神代分館

▼利用支援サービス



はじめに

かつて「歌」には呪力（超自然な力）があり、歌う時や場所といった約束ごとを守ることによって、神の力を得ることができ、それが家の発展、地区の発展につながると考えられていました。調布にも、婚礼や法事をはじめ、家の新築などの機会に歌われた「これさま」や「五反田節」をはじめ、「餅つき歌」といった祝い歌が伝承されています。

1. 南関東地方の郷土民謡「これさま」

祝い歌は、冠婚葬祭の互助団体の人たち（おもに年長の女性）によって歌われるものでした。「月並み念仏」といって、毎月一回ずつ仏名を唱える供養の時に、いくつかの祝い歌を口伝えでおぼえ、結婚式などで披露しました。

なかでも「これさま」（こなたさま、こちらさまの意）とよばれる祝い歌は、昭和初年まで、婚礼の席でまず歌わないと、ほかの流行歌を歌えなかったほど重要な歌であったようです。

柴崎地区では、結婚式の会場となる家の人が客人を迎える際に「今日のエ - 客のおいでが三日さきからエ - 知れたなら、七匹のエ - 駒そろえてエー おいでなさきまでエー お迎えに」と歌い、次に客がその家、仲人、嫁、おかみさんの順にほめ、最後に、ごちそうのお礼の歌を返して式を締めくくりました。

2. 餅つき歌

年末には、近隣何軒かで手伝いあいながら、正月に神に供える餅をつくことが恒例となっていました。蒸したモチ米を臼でこねる時には、数人が調子をあわせて「めでたなあエー めでためでたの若松さまよ」という餅つき歌（練り歌ともいう）を歌い、正月を迎える準備をしました。

3. 三月節句の布ざらしの歌

村の生活から生まれた民謡のなかには、時の流れとともに、歌の目的や曲調が徐々に変化し

ていったものもありました。

上石原地区や布田地区には、江戸時代の終わりごろ、三月三日の節句に子供たちが「布ざらしの歌」という仕事に合わせて歌う仕事歌から派生した流行歌を取り入れ、遊び歌にして歌ったり踊ったりしたという記録があります。「この川の流れのすえはどこまで、布を流さば海まで」といった歌詞や節回しは「これさま」から変化した「ハツセ」という古い歌風を伝えているといえます。

もともと三月の節句は、疫病流行のきざしが現われてくる旧暦三月（現在の四月）に、ケガレを人形に移して川や海に流す



ハツセの踊り

という行事でした。この三月の節句に、多摩川の近隣地区の子供たちが「布ざらし」の歌と踊りを娯楽として行うようになったというのは、地域性とその歴史をよく表わしています。

郷土民謡は、それぞれの地域の歴史・文化・生活様式はもちろん、人の感情までも伝える貴重な資料です。調布で歌われてきた民謡から、かつて多摩川で行われていた布ざらしの面影や、おめでたい行事のよろこびを人々が分かちあっていた光景が目に見えてくるようです。

※参考文献：『江戸名所図会』『調布市史民俗編』
小寺融吉著『郷土民謡舞踊辞典』

刊 行 物 番 号

2024-166

図書館だより 第274号

令和 7年3月25日発行 [市内印刷]

発行 調布市立図書館

〒182-0026 東京都調布市小島町2-33-1

TEL 042-441-6181

<http://www.lib.city.chofu.tokyo.jp/>